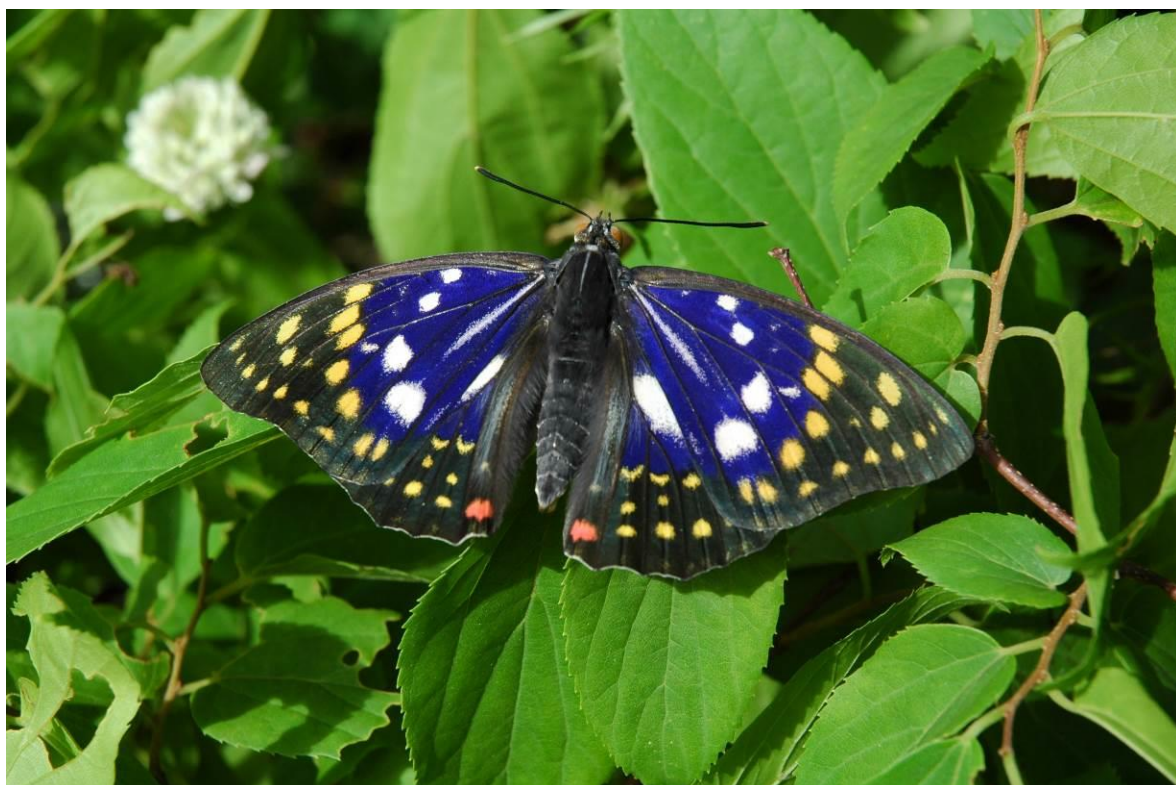


栗山町社会教育中期計画

【令和5年度～令和12年度】



～人々が元気に輝くふるさとづくり～

栗山町教育委員会

栗 山 町 民 憲 章

わたくしたちは、夕張川の流れとともに、たくましい先人の夢を育て、
輝く未来を築く栗山町民です。

- 一 健康につとめ、笑顔あふれるまちをつくりましょう。
- 一 きまりを守り、住みよいきれいなまちをつくりましょう。
- 一 親切をつくし、心のふれあうまちをつくりましょう。
- 一 仕事にはげみ、生きがいのあるまちをつくりましょう。
- 一 郷土を愛し、文化豊かなまちをつくりましょう。

(昭和53年9月28日制定)

栗山町教育のめざすところ

●栗山町教育推進の合言葉

人々が元気に輝くふるさとづくり

●こんな人を育てたい

ともに支えあい・希望の実現に挑み続ける人

ともに支えあい・生涯にわたって学び続ける人

ともに支えあい・ふるさと栗山を大切にする人

●栗山町の教育の目標

- 1 健康なからだと豊かな心を育む
- 2 たくましく挑み続ける実践力を育む
- 3 開かれた信頼される学校をつくる
- 4 地域みんなで子どもを育てる体制をつくる
- 5 ふるさと栗山のよさを生かした生涯学習を推進する

(平成20年11月1日改定)

みんなでつながる みんなで支える～人々が輝くふるさとづくり～

栗山町社会教育中期計画の策定にあたって

我が国は、世界に類のない少子高齢化が進行し、高度情報化・国際化の進展など、留まるところを知らないと思われる程の大きな社会変化の直中にあり、これらの変化とともに、人々の価値観が多様化し、社会的・教育的なニーズが多岐にわたるようになってきました。

栗山町にあっては、令和5年度、第7次総合計画後期実施計画の初年度を迎えます。第7次総合計画・基本構想では、「まちづくりの基本理念」を

- ① 情報共有のまちづくり
- ② 町民参加のまちづくり
- ③ 連携・協働のまちづくり
- ④ 持続可能なまちづくり と謳いました。

この基本理念の下

町政推進の合言葉は 「ふるさととは栗山です。」 に

まちの将来像を ～みんなが元気なまち～ としました。教育委員会は第6次総合計画に引き続き「人々が元気に輝くふるさとづくり」を担います。

栗山ならではの地域教育に力を尽くした30年を超える町民活動の精神を継承し、地域の総合力で創り出す教育を目指します。『伝える・伝えあう・関わりあう』町民連携・協働の力で、人々が元気に輝くふるさとづくりに貢献したいものです。

この計画は、大きく変わりつつある社会において、本町の生涯学習・社会教育の目指す姿や進め方を示すものです。施策推進にあたりましては、「最小限度の経費で最大限の効果をあげるよう」努めてまいります。町民の皆様はじめ関係各位のご指導・ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

終わりに、この計画を策定するにあたり、貴重なご意見・ご提言を賜りました社会教育委員の皆様をはじめ、関係各位に深甚なる敬意を表し、心から感謝申し上げます。

令和5年3月

栗山町教育委員会

教育長 吉田政和

栗山町社会教育中期計画目次

栗山町民憲章

栗山町の教育の目標

栗山町社会教育中期計画の策定にあたって

I 基本事項

1	計画策定の趣旨	1
2	計画策定の経過	1
3	計画の性格	2
4	計画の呼称及び期間	2

II 基本的な考え方

1	計画推進ビジョン	3
2	計画目標	4

III 現状と課題

①	幼児教育・家庭教育	5
②	青少年育成	6
③	社会教育	7
④	図書館	8
⑤	芸術文化	8
⑥	スポーツ	9
⑦	地域間交流	10
⑧	自然環境	10

IV 施策の方向性

1	施策の基本目標	
(1)	生涯教育	
①	幼児・家庭教育の推進	11
②	青少年教育の推進	12
③	成人・高齢者教育の推進	13
④	図書館活動の推進	14
⑤	社会教育施設の整備	15
⑥	ふるさと教育の推進	16
(2)	自然環境教育	
①	自然環境の保全・再生	17～18
②	ふるさと自然体験教育の推進	19
(3)	スポーツ	
①	生涯スポーツの推進	20
②	スポーツ施設の整備	21

(4) 芸術・文化	
① 芸術・文化の推進	22～23
② 文化財保護・活用の推進	24
(5) 国際・地域間交流	
① 国際交流の推進	25
② 地域間交流の推進	25

2 実行計画

(1) 生涯教育	26～27
(2) 自然環境教育	28
(3) スポーツ	29
(4) 芸術・文化	30
(5) 国際・地域間交流	31



I 基本事項

1 計画策定の趣旨

生涯学習・社会教育は、社会情勢の変化や教育における今日的課題などを踏まえ、将来を見据えた住民主体の学習活動を展開していくことが必要です。また、生涯学習社会の構築に向けて、生涯学習・社会教育の果たすべき役割や機能を明確にしておくことが重要です。

そのためには、さまざまな学習活動への奨励・支援や自主的な学習活動を推進していくことが必要であり、教育活動を総合的・系統的に進めるため、新たな「栗山町社会教育中期計画」を策定するものです。

2 計画策定の経過

本町の生涯学習・社会教育は、昭和59年度に策定された「栗山町社会教育中期計画」を基本に進められてきています。

その後、「第2次（平成元～5年度）」「第3次（平成6～10年度）」「第4次（平成11～15年度）」「第5次（平成16～20年度）」「第6次（平成21～26年度）」「第7次（平成27～令和4年度）」にわたる計画によって一定の成果をあげています。

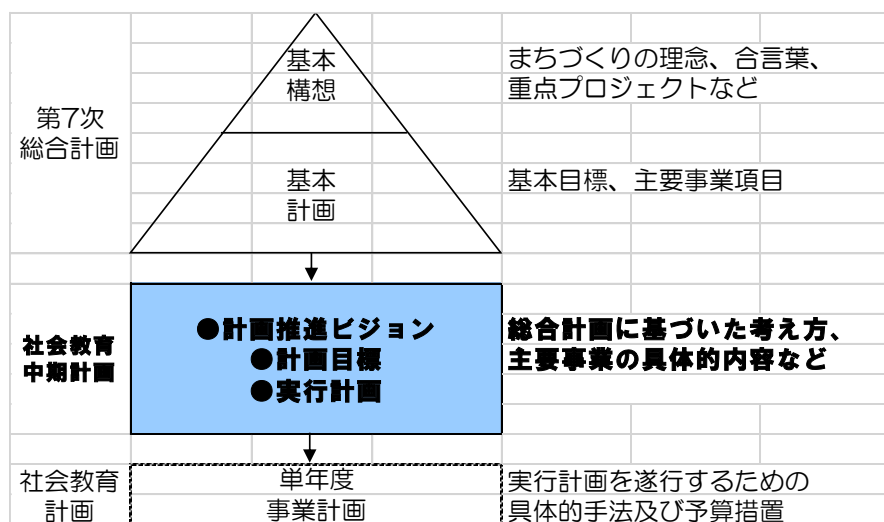
期間	計画等	
	計画名	社会教育目標
昭和59～63年度	(第1次) 社会教育中期計画	ひとりひとりが教育と文化を高め心のふれあう豊かな地域づくりをすすめよう
平成元～5年度	(第2次) 社会教育中期計画	ひとりひとりが教育と文化を高め心のふれあう豊かな地域づくりをすすめよう
平成6～10年度	(第3次) 社会教育中期計画	ひとりひとりが教育と文化を高め心のふれあう豊かな地域づくりをすすめよう
平成11～15年度	(第4次) 社会教育中期計画	ひとりひとりが学習・文化・スポーツに親しみ、生涯にわたって学び続けることができる学習環境をつくり、活力あるまちづくりを進めます
平成16～20年度	(第5次) 社会教育中期計画	一人ひとりが学習・文化・スポーツに親しみ、生涯にわたって学び続けることができる学習環境をつくり、活力あるまちづくりを進めます
平成21～26年度	(第6次) 社会教育中期計画	一人ひとりがあらゆる場で、生涯にわたって学び活動することができる環境をつくり、活力あるまちづくりを進めます

平成27～ 令和4年度	(第7次) 社会教育中期計画	一人ひとりがあらゆる場で、 生涯にわたって学び活動す ることができる環境をつく り、活力あるまちづくりを進 めます
----------------	-------------------	---

3 計画の性格

この計画は、本町が令和5年2月に策定した「栗山町第7次総合計画 ふるさとと栗山です。～みんなが元気なまち～」(令和5～12年度)に掲げる基本構想並びに基本計画に基づき、「栗山町第7次総合計画」を上位計画と位置づけます。

また、生涯学習社会を見据えた将来展望に立ち、具体的な取り組みを示す「実行計画」としての性格を持つものとします。



4 計画の呼称及び期間

この計画は「栗山町社会教育中期計画」と称し、計画期間は「栗山町第7次総合計画」との整合性を図るため、令和5～12年度の8カ年とします。

また、単年度ごとに実施した事業の評価(成果と課題)を積み重ね、施策の進捗状況などを勘案し、当初の計画の再検討も踏まえ必要に応じ計画の見直しを行うこととします。

II 基本的な考え方

1 計画推進ビジョン

みんなが元気なまち・・・合言葉は【ふるさとほ栗山です。】・・・これが「栗山町第7次総合計画」の主題です。そして、教育委員会が担うのは【人々が元気に輝くふるさとづくり】です。

私たちはこの合言葉のもと、幼児から高齢者までの誰もが、生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、学校、家庭、地域などさまざまな場で、生涯にわたって学び活動することが可能な環境をつくり、文化の香り高いまちづくりを進めるために邁進します。

「栗山町第7次総合計画」では、『生活環境』『教育』『医療・保健・福祉』『産業』『都市基盤』『地域経営』の6つの大きな政策分類により示され、それぞれに政策項目を特定して施策が記述されています。

「栗山町社会教育中期計画」では、「栗山町第7次総合計画」に掲げる政策分類のうち、『教育』に記述されている次の政策項目について推進していきます。

- | |
|--|
| ① 生涯教育 ②自然環境教育 ③スポーツ ④芸術・文化 |
| ⑤ 国際・地域間交流 |

私たちは、常に「栗山町社会教育中期計画」を念頭において事業展開を行い、町民とともに人々が元気に輝くふるさとづくりに邁進します。

2 社会教育中期計画目標

1 社会教育目標

一人ひとりがあらゆる場で、生涯にわたって学び活動することがで
きる環境をつくり、活力あるまちづくりを進めます

2 キャッチフレーズ

「みんなでつながる みんなで支える

～人々が元気に輝くふるさとづくり～

活力あるまちを創り上げていくためには、その地域に住む人と人が「つながり」「支え合う」ことが大切なのではないでしょうか。

このような思いから、「栗山町社会教育中期計画」のキャッチフレーズを『みんなでつながる みんなで支える～人々が元気に輝くふるさとづくり』とします。



Ⅲ 現状と課題

① 家庭教育

現状と課題	核家族化・共働き家庭の増加、地域とのつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境が変容する中、家庭の教育機能の低下が懸念されています。無限の可能性を引き出し人間形成の基礎を培う幼児期の教育は極めて重要です。 幼児が心身ともに健やかな発達ができるよう、家庭・保育園・こども園・小学校・地域社会が連携して育成環境の整備に努め、幼児教育の充実を図ることが大切です。 家庭は社会の根源となる集団であり、家庭教育は、人間形成の土台をつくる重要な機能をもっています。 心豊かな子どもの育成を願い、関係諸機関・団体との連携に努め、地域全体で家庭教育を支える活動を進める必要があります。
評価・検証	幼児教育や家庭教育を充実させるためには、学校・地域・家庭・行政が一体となって支援する環境をつくることが重要です。 また、親子のふれあいや地域の大人と交流・体験できる機会の提供、具体的な幼児教育・家庭教育の支援につながる情報提供の充実を図ることも必要です。



② 青少年育成

現状と課題	青少年を取り巻く環境が大きく変化し、いじめや引きこもり、薬物乱用など少年犯罪の低年齢化・凶悪化に加え、インターネット等を悪用した犯罪の被害が深刻な問題となっております。青少年の健全な育成を図るためには、学校での教育とともに家庭や地域が一体となって豊かな心を育む必要があります。 町では、青少年育成会活動のほか、青少年健全育成事業として「栗山キッズクラブ事業」を実施するなど豊かな心を育む活動に取り組んでいます。 今後も引き続き学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいくことが必要ですが、少子高齢化の中で、各種事業への参加者の減少や指導者・育成者の担い手が不足し、団体の組織力低下やリーダーの育成が大きな課題となっています。
評価・検証	青少年の健全育成のためには、関係諸機関・団体が連携し、地域の教育資源を活かしながら継続性のある取り組みを進めることが必要です。 また、情報提供の充実を図るとともに、学んだことを活かすことのできる環境をつくることも重要です。



③ 社会教育

現状と課題	学習ニーズの高度化や生涯学習社会の進展に対応する栗山らしい生涯学習づくりを担う社会教育の役割は重大です。 本町では、町民の学習意欲が高まり、芸術文化活動をはじめとする諸活動が展開されていますが、社会教育の一層の充実を図るには、主体的に学ぶ姿勢・豊かな人間性・健康な身体を高める社会教育を推進し、より多くの町民の参画を促すことが重要です。 地域の教育機能をさらに高めていくため、地域での交流など青年間、世代間など、さまざまな交流の機会を提供するとともに、地域課題に的確に対応し、教育、福祉、産業など各分野の最先端の専門情報が集まる大学や研究機関と連携するなど、あらゆる機会・場所において学ぶことができ、その成果を活かすことのできる機会を提供する必要があります。
評価・検証	生涯学習・社会教育の推進を図り次代を担う人材育成や特色あるまちを創るためには、主体的にまちづくりに関わる人材の育成や環境をつくることが重要です。 また、情報提供の充実を図りながら現状の把握に努め、協定大学や関係諸機関・団体との連携を図りながら、住民ニーズの把握に努め、地域の教育資源や人材を活用した取り組みや学習機会の充実を図ることも必要です。



④ 図書館

現状と課題	図書館では豊かな感性や創造性を高める読書機会の充実、関係諸施設・団体との連携促進など、体系的・計画的に取り組んできました。 変化する社会において、自ら考え適切な判断をするためには、参考になる情報を収集し絶えず学習することが大切であり、知識や情報が適切に入手できるような環境の整備が必要です。 また、豊かな人間性を育むには、幼児期からの読書習慣の形成と読書環境の整備が求められます。
評価・検証	読書活動を推進するためには、情報提供の充実を図りながら、読み聞かせボランティア等の活用やインターネット等を活かした読書サービスを充実させることが必要です。

⑤ 芸術文化

現状と課題	心の豊かさや生きがいをもたらす芸術文化の振興は、活気あるまちづくりに貢献するものです。 本町では、文化連盟を中心にした総合芸術祭をはじめとする活動が豊かに展開されています。また、自主的に結成された町民団体がクラシックコンサートなどの開催を継続し、町外からも多くの来場者があります。 今後も町民の文化意識の一層の高揚を図り、文化事業の充実に努める必要があります。また、芸術作品に接する機会を多様に設け、町民の芸術意識を高める環境づくりに努めることも大切です。 さらに国や町指定の文化財、古くから伝承されてきた獅子舞をはじめとする郷土芸能を次世代に引き継ぐ活動を進め、適切な保護に努めることも大切です。
評価・検証	芸術文化を振興するためには、指導者の発掘と養成、芸術家との交流、文化活動団体の自主的運営や文化交流の促進、継続性のある魅力的な事業の展開、広域的な文化創造ネットワークの推進を図ることが必要です。 文化財の保護及び活用については、啓発活動の充実や事業等による文化財の活用機会をつくるとともに、地域と連携した伝統文化の伝承活動の普及啓発が必要です。



⑥ スポーツ

現状と課題	本町では、町民が心身ともに健康で充実した生活を営むことができるよう、各種スポーツ教室・大会・レクリエーションを実施し、健康・体力づくりを推進するとともにスポーツ協会（15団体）、スポーツ少年団（7体）などの育成を図ってきました。 また、くりやま歩けあるけ運動など、町民の誰もが気軽に参加できる事業を実施するなどスポーツの普及を行っています。 今後は高齢社会の進展にともない、高齢者のスポーツ活動を通じた社会参加の場の拡充と合わせ、各種スポーツに関する多様な知識や技術を持った人材が交流できる環境の整備が求められます。 また、地域住民により自主的・主体的に運営され、多世代、多志向、多種目による活動を行う「総合型地域スポーツクラブ」の必要性が高まり、老若男女を問わず「いつでも」「どこでも」「だれでも」スポーツに親しむことができるような環境の整備が求められています。 本町には、スポーツセンターを拠点とした16の体育施設があり、各種大会・合宿・練習の場として多くの町内外利用者に活用されています。 安全で快適な環境でスポーツ・レクリエーション活動に親しめるよう施設を整備し、各種大会等を誘致するなど、町民がスポーツに親しみ・楽しむ機会を提供していくことも大切です。
評価・検証	地域が一体となってスポーツ・レクリエーション活動を推進するため、情報提供の充実を図るとともに、関係諸機関・団体と連携しながら施設の有効活用、夜間や冬季間の事業充実、スポーツ団体の自主的運営を促進することが必要です。



⑦ 地域間交流

現状と課題	開祖泉麟太郎翁ゆかりの地である、宮城県角田市と昭和53年に姉妹都市提携を結び、農業や青少年育成をはじめ、様々な分野で交流を重ねてきました。 また、少年ジェット「希望の翼」、民間団体などの海外派遣事業や中学校への外国語指導助手の配置など、国際感覚の高揚に努めてきました。 今後は、多様な分野での地域間交流を積極的に進め、次代を担う人材育成を図る必要があります。
評価・検証	地域間交流を積極的に進めていくためには、情報提供の充実を図るとともに、人材の把握とその活用、団体等への支援に努め、地域に根ざした事業を展開することが必要です。

⑧ 自然環境

現状と課題	本町の自然環境保全・再生活動は、自然関係団体と町民との協働により成果を上げています。中でもハサンベツ地区においては、雑木林や自然河川の再生をはじめとする身近な環境の保全・再生が進められ、生物多様性を持つ重要な教育環境となっています。今後は、それらを活かした「ふるさと自然体験教育」を中心に、「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」を拠点とした環境教育のまちづくりを積極的に推進する必要があります。 また、生息の北東限地帯にあたる国蝶オオムラサキは、本町の自然環境を象徴するシンボルであり、引き続きその生育環境の保全・再生が必要です。
評価・検証	豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくためには、情報提供の充実を図るとともに、教育現場のニーズを把握し、関係諸機関・団体と連携しながら人材の育成・活用に努める必要があります。



Ⅳ 施策の方向性

1 施策の基本目標

(1) 生涯教育

① 幼児・家庭教育の推進

【基本目標】

家庭は、子供たちの健やかな育ちの基盤であり家庭教育はすべての教育の出発点です。しかし、地域とのつながりの希薄化や、親が身近な人から子育てを学ぶ機会や助け合う機会の減少など、子育てや家庭教育を支える地域環境が大きく変化しております。すべての親が安心して子育てや家庭教育を行うことができるよう関係機関・団体と連携し学習と実践を通じて家庭教育の機能を高めることを目的とします。

【施 策①】

家庭教育の機能を高める啓発・支援を実施します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	事業実施回数	2	2	2	講演会等の実施回数
	情報発信回数	0	2	2	マナビィ等での情報発信回数
成果指標	事業参加者数	57	60	60	事業等への参加者数

○期待する効果

心身ともに豊かな子どもを育むため、家庭教育がどのような役割を果たさなければならないかを学習することで、より良い家庭環境づくりが図られる。

② 青少年教育の推進

【基本目標】

青少年育成団体の活動を支援し、健全な青少年の育成と明るく豊かな地域社会づくりを推進します。また、青少年を地域社会や自然の中で体験的に学ばせることにより、生きる力を持った栗っ子を育成します。

【施 策①】

自然・社会体験など、青少年の体験活動の機会を提供します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	栗山キッズクラブ実施回数	8	10	10	年間の実施回数
成果指標	栗山キッズクラブ参加者延べ人数	118	180	180	各回の参加者の合計

○期待する効果

自然体験や生活体験をはじめとする多様な体験活動を行うことにより、人間性豊かな青少年の育成が推進される。

【施 策②】

青少年育成会活動を支援します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	運営委員会の開催数	7	8	8	活動に係る協議・育成会の活性化につながる会議の開催
	青少年育成会事業の実施	5	8	8	リーダー研修・かるた大会等事業の実施回数
成果指標	青少年育成団体数	35	35	35	単位育成会の数
	青少年育成会事業への参加	98	160	160	リーダー研修・かるた大会等への参加者数

○期待する効果

青少年育成会活動を通して、健全な青少年の育成と明るく豊かな地域社会を築くことを推進する。

③ 成人・高齢者教育の推進

【基本目標】

成人期は社会的に自立し、家庭や職場、地域での責任を果たしていく時期であり、個人の関心、体力などに応じた主体的な活動が可能な時期であります。

そのため、家庭や仕事などそれぞれのライフスタイルに応じた多様なニーズにこたえる学習の機会が求められています。

健康で心豊かな人生を送り、自らの意志で学ぶ生涯学習の一層の充実を図るため、町民一人ひとりの学習を大切に、地域の課題に取り組んでいくための多様な学習情報を提供するとともに学習機会の充実に努めます。

また、高齢者の喜びと生きがいのある人生を過ごすため、交流しながら知識や教養を高める機会を提供します。

【施 策①】

高齢者の喜びと生きがいを感じる学びの機会を提供します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	いきいきすくーる学習回数	1	6	6	いきいきすくーる：学習機会の実施回数
	いきいきすくーる「いきいき塾クラブ活動」	2	2	2	いきいき塾：受講生の内、約 20 名を対象に学習機会を提供
成果指標	いきいきすくーる参加者数	388	350	350	いきいきすくーるに参加した延べ人数
	いきいき塾クラブ活動参加者数	15	20	20	いきいき塾への参加者数

○期待する効果

多様な学習機会を提供することにより、健康で生きがいのある生活を支援するとともに、学習した成果や幅広い経験を活かした社会参加活動への促進が図られる。

【施 策②】

町民の多様な学びの機会づくりを実施します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	開催講座数	5	6	6	町民講座の開催数
	全開催日程	7	10	10	連携講座を含めた全講座の開催日数
成果指標	参加者人数	125	200	200	町民講座の参加者人数
	参加者満足度	3.8	3.8	3.8	町民講座参加者アンケートの満足度 (4段階)

○期待する効果

成人期での自己の再発見や学びなおしなど、学ぶ楽しさを知るとともに、学んだことを日常に活かし、より健康で心豊かな生活の充実が図られる。

④ 図書館活動の推進

【基本目標】

町民の学習課題解決を支援するサービスや情報提供を行い、生涯学習の振興につながる「役に立つ図書館」としての事業推進に努めます。

また、読書活動の普及を進め、町民の心を豊かにして、文化の向上を図ります。

【施 策①】

町民の読書活動を支援します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	購入冊数	5,800	5,900	5,900	図書館施設の規模等を考慮し設定
	蔵書数	159,479	160,000	160,000	
成果指標	利用者数	26,000	35,000	35,000	利用実績をもとに設定
	貸出冊数	80,000	90,000	90,000	

○期待する効果

読書活動を通し、町民の心を豊かにするとともに、栗山町の文化の向上が図られる。

⑤ 社会教育施設の整備

【基本目標】

老朽化した施設を使用し続けることで維持費の増大や、利用上の安全性の低下などが危惧されているため、社会教育施設の計画的な改修を行います。

【施 策①】

老朽化した社会教育施設の改修などを計画的に実施します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	計画的な施設 改修箇所数	6	3	8	工事・修繕した個所数
	施設の修繕箇 所の確認調査	6	3	8	指定管事業者等と連携し た修繕計画の打合せ
成果指標	社会教育施設 数	3	1	1	改修した施設数
	社会教育施設 利用者数	64,448	70,000	70,000	社会教育施設の利用者数

○期待する効果

小規模修繕については事後保全で対応可能であるが、大規模修繕については中長期の計画を立て予防保全することにより、利用者の安全確保及び改修コストの低減が図られる。

施設を良好な状態に保ち、生涯学習や地域活動の拠点とすることによって、地域コミュニティの形成が図られる。

⑥ ふるさと教育の推進

【基本目標】

地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子ども達を支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図ります。

【施 策①】

地域と学校が連携・協働した教育活動を推進します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	企画事業数	0	2	2	ふるさと教育交流会等企画事業の実施回数
	会議開催日数	3	5	5	
成果指標	参加者人数	0	200	200	企画事業への参加者数
	参加者満足度	-	4	4	参加者の満足度（5段階）

○期待する効果

学校と地域の連携強化が図られることにより、つながりのある地域づくりが期待される。

(2) 自然環境教育

①自然環境の保全・再生

【基本目標】

国蝶オオムラサキの生態を通して、自然の循環と人間社会との関わりを学ぶ機会を提供することにより、身近な自然への関心と次世代へと継承を図るとともに、計画的な繁殖・飼育事業により、将来的なオオムラサキの自然繁殖を推進します
関係諸機関・団体と連携しながら、町民参加型による自然環境の保全、自然保護活動を推進するとともに、ふるさとの自然を活かした環境教育を推進します。
また、町民が主体的に、かつ連動して自然環境の保全等に取り組む意識の向上及び運動の展開を図ります。

【施 策①】

国蝶オオムラサキの生息環境を保全・再生し、生態を公開します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	オオムラサキ館事業の開催回数	5	7	10	オオムラサキ館企画事業の実施回数
	オオムラサキ館の生きものの展示数	73	80	85	オオムラサキ館の生物の展示数
成果指標	オオムラサキ館事業の参加者数	221	270	300	オオムラサキ館企画事業の参加者数
	オオムラサキ館来館者数	22,500	25,000	27,500	オオムラサキ館の来館者数

○期待する効果

本町の自然や生物の素晴らしさを伝えることで、子どもたちの感性は豊かになり、持続的に自然環境の保全・再生を図ることができる。・飼育員及びサポーターの育成により、オオムラサキ館の安定的な運営を図ることができる。・国蝶オオムラサキという町のシンボルを育成保護し、町民が触れ合える環境を整備することで、自然保護思想や郷土愛の醸成を育むことができる。

【施 策②】

ハサンベツ里山づくりの町民活動を支援します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	ハサンベツ里山づくり実施回数	5	10	10	ハサンベツ里山の日・市民工事等への参加者数
	ハサンベツでの自然体験受入れ回数	73	100	100	復元した自然環境で行われた体験学習等の実施回数
成果指標	ハサンベツ里山づくり参加者数	138	350	400	
	ハサンベツでの自然体験者数	1,755	2,500	2,500	

○期待する効果

町内外の児童生徒の自然体験学習受入れの重要なフィールドとなる。

農林水産省「立ち上がる農山漁村」の指定（全国 216 事例）や、北海道新聞社による「北の未来奨励賞」の受賞、環境大臣表彰受賞、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰授賞など、栗山町のブランド力を高める要因ともなる。

新たな担い手の掘り起しにより、保全・再生活動が活性化される。

【施 策③】

人と自然との共生を推進します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	関係団体との打合せ	5	5	5	計画策定等に係る会議数及び関係団体の打合せ回数
	シンポジウムの開催	0	1	1	人と自然の共生に関するシンポジウムの開催数
成果指標	ハサンベツ里山づくり参加者数	138	350	400	保全活動に取り組む人数の確認
	シンポジウムの参加者数	0	30	30	保全活動に興味・関心のある意識向上

○期待する効果

町民が主体的に自然環境の保全等に取り組む体制を整え活動を推進させる。

②ふるさと自然体験教育の推進

【基本目標】

町内児童生徒のふるさとを大切にする心を育むため、町内の自然環境を活用した児童生徒による体験学習活動を行います。

また、拠点となる雨煙別小学校を活用した事業展開を推進します。

【施 策①】

「ふるさと自然体験教育」の推進と、その拠点となる「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」の利活用を図ります。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	ふるさと自然体験教育の実施	112	130	130	ふるさと自然体験教育の実施（提供）数
	施設稼働数	330	330	330	雨煙別小学校の施設稼働数
成果指標	ふるさと自然体験教育への参加	3,895	4,000	4,000	ふるさと自然体験教育の参加（体験）者数
	施設利用者数	4,500	7,000	8,000	雨煙別小学校の利用者数

○期待する効果

町内の小中学生のふるさと自然教育が推進され、郷土愛の向上、たくましく成長する力、応用力など多面的な教育効果が期待できる。・雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスの利用促進につながる。

(3) スポーツ

① 生涯スポーツの推進

【基本目標】

スポーツは健康・体力づくりという効果に加え、豊かな心を育み、人生を充実させることにもつながります。生涯をととして町民一人ひとりが健康で生きがいある豊かな生活を営むことができるよう、「いつでも」「どこでも」「だれでも」スポーツに親しめる環境づくりを進めます。

また、スポーツ団体の活動を支援し、競技力向上と青少年の健全育成を図りスポーツの普及振興を図ります。

【施 策①】

生涯スポーツを推進します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	事業実施数	12	13	13	町民が参加できる町内で行われるスポーツ事業の実施回数
	スポーツ関係団体数	23	22	22	スポーツ協会・スポーツ少年団本部の加盟団体数
成果指標	スポーツ事業参加者数	75	200	200	スポーツ事業の参加者数
	関係団体加盟人数	631	600	580	スポーツ関係団体加盟人数

○期待する効果

多種のスポーツ事業推進及び支援をすることにより、幅広い年代が健康で生きがいのある生活が促進される。

②スポーツ施設の整備

【基本目標】

老朽化した施設を使用し続けることで維持費の増大や、利用上の安全性の低下などが危惧されているため、社会体育施設を計画的に改修・集約・廃止を行います。

【施 策②】

老朽化した社会体育施設の改修などを計画的に実施します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	計画的な施設 改修箇所数	5	2	2	工事・修繕した個所数
	施設の修繕箇 所の確認調査	2	3	3	指定管事業者等と連 携した修繕計画の打 合せ
成果指標	社会体育施設 数	4	2	—	改修した施設数
	社会体育施設 利用者数	99,438	100,000	100,000	社会体育施設の利用 者数

○期待する効果

スポーツ施設の大規模修繕について、中長期的な計画を立て予防保全することにより、利用者の安全確保及び改修コストの低減が図られる。

（４）芸術・文化

① 芸術・文化活動の推進

【基本目標】

町民が心豊かな潤いのある人生を創造することができるよう、関係団体と連携し芸術・文化に親しめる機会を提供や文化団体の育成と町民の文化活動の推進のため、芸術・文化サークル活動を支援するとともに、栗山の風土に根ざした郷土芸術の創造を目指し、町民の自主的な文化活動を支援します。

【施策①】

町民が芸術文化に親しむ環境づくりと芸術創造のまちづくりを推進します。

○指標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	芸術文化鑑賞事業	12	13	14	芸術文化鑑賞事業、工房体験事業の実施回数
	文化振興基金申請件数	1	3	5	文化振興基金の申請件数
成果指標	芸術文化鑑賞事業等参加・来場者数	1,263	1,700	1,800	芸術文化鑑賞事業、工房体験事業の参加・来場者数
	文化振興基金交付件数	1	3	5	文化振興基金の交付件数

○期待する効果

優れた芸術作品を鑑賞することで、心の豊かさや生きがいをもたらし、活気あるまちづくりにも貢献する。

【施 策②】

町民や文化団体による芸術・文化活動を支援します。

○指 標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	芸術文化事業開催回数	4	4	4	町民及び団体・サークルが主体的に参加する芸術文化事業の開催回数
	栗山町文化連盟加盟団体数	31	30	30	栗山町文化連盟に加盟する団体の数
成果指標	芸術文化事業参加来場者数	1,831	2,000	2,200	町民及び団体・サークルが自主的に参加する芸術文化事業の参加来場者数
	栗山町文化連盟加盟会員数	306	300	300	栗山町文化連盟に加盟する会員の人数

○期待する効果

町民の各種文化事業への積極的な参加や、文化団体及びサークル活動の活性化と自主的な運営につながる。

② 文化財保護・活用の推進

【基本目標】

歴史的文化財の保護・活用や郷土芸能の継承活動を通じて、町民の文化財及び伝統文化に対する理解・関心を高めるとともに、郷土の開拓に尽くした先人の文化や遺産を後世に伝え、まちの歴史を学び理解を深めるふるさと学習の充実を図ります。

【施策①】

ふるさと栗山の文化財保護・活用や郷土芸能の継承活動を推進します。

○指標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	文化財保護委員会開催回数	3	4	4	文化財保護委員会の開催回数
	開拓記念館事業実施件数	6	6	6	開拓記念館事業（特別展、生活体験事業、指定管理者自主事業）の実施件数
成果指標	文化財指定件数（国・町指定）	23	24	25	国または町が指定する文化財の数
	開拓記念館来館者数	1,000	1,700	1,750	開拓記念館の来館者数

○期待する効果

郷土の歴史や芸能・文化を学び体験することにより、ふるさと栗山に対する郷土愛が醸成され、地域に根差した伝統文化の普及・保存・継承につながる。

（５）国際・地域間交流

①国際交流の推進

【基本目標】

外国人との交流を通じて、国際感覚を身につけ自己を高めることにより、国際社会に対応できる人材の育成に努めます。

【施策①】

少年ジェット派遣事業を実施します。

○指標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	研修実施回数	4	4	4	
成果指標	少年ジェット派遣事業申込者数	11	15	15	提供をした事業に何人の町民が応募したか

○期待する効果

国際感覚を身につけ、国際社会に対応できる青少年の育成が期待される。

②地域間交流の推進

【基本目標】

地域の個性を活かしたさまざまな分野での地域間交流を進めることにより、次代を担う青少年の育成を図ります。

【施策】

姉妹都市（宮城県角田市）、被災地などとの青少年交流事業を実施します。

○指標

区分	指標項目	現状 (R3)	R8	R12	指標設定
活動指標	事業実施回数（子ども）	0	1	1	
	事業実施回数（青年）	1	1	1	
成果指標	事業参加者数（子ども）	0	25	25	
	事業参加者数（青年）	5	5	5	

○期待する効果

多様な分野での地域間交流を進めることにより、次代を担う人材の育成が期待される。

栗山町社会教育中期計画 実行計画(令和5年度～令和12年度)

No. 1

政策項目	施策項目	事業名	取り組むべき内容
(1) 生涯教育	①幼児・家庭教育の推進	計画事業	☐ 保護者に対する学習機会の提供 ・家庭教育講演会等の開催（年2回開催） ☐ 保護者に対する情報提供 ・マナビィによる情報提供（年2回実施）
		計画事業	☐ 自然・社会体験など、青少年の体験活動の機会を提供します。 ・栗山キッズクラブ事業（年10回開催）
	②青少年教育の推進	計画事業	☐ 青少年育成会活動の支援 ・リーダー研修会、かるた大会（年8回開催） ・各地区育成への支援
		計画事業	☐ いきいきスクール ・企画・運営～協力委員会議（年4回開催） ・講演会、バス研修（年6回開催） ☐ いきいき塾（クラブ活動） 大正琴サークル（通年開催）
	③成人・高齢者教育の推進	計画事業	☐ 学習機会の提供 ・町民講座の開催（年6回開催） 大学連携・定年世代向け町民講座 ボランティア養成講座など ☐ 学習機会等の情報発信 ・社会教育情報誌 マナビィの発行（年12回発行）
		一般事業	☐ はたちのつどい ・はたちのつどい実行委員会
		一般事業	☐ 地域の人材を活用した事業の実施 ☐ 知識や技術を活かす場の提供
		一般事業	☐ 女性学級

		一般事業	栗山青年団体協議会への支援	□栗山青年団体協議会の支援
	④図書館活動の推進	計画事業	町民の読書活動を支援します。	☐ 指定管理者業務 ・ミニくりプロジェクト ・子育てブックスタートだっこ&ぶっく ・移動図書館 ・図書館備品購入 ☐ 図書館システム更新事業 ☐ 移動図書館車更新事業
	⑤社会教育施設の整備	計画事業	老朽化した社会教育施設の改修などを計画的に実施します。	☐ 社会教育施設の計画的な改修 南部公民館 農村環境改善センター カルチャープラザE k i オオムラサキ館 開拓記念館 図書館 総合福祉センターしゃるる
		一般事業	社会教育施設の管理	☐ 指定管理者の管理運営 南部公民館 農村環境改善センター カルチャープラザE k i オオムラサキ館 開拓記念館 図書館 ☐ 町管理施設の管理運営 総合福祉センターしゃるる オオムラサキ館
	⑥ふるさと教育の推進	計画事業	地域と学校が連携・協働した教育活動を推進します。	☐ 地域教育協議会の開催 ・ふるさと教育に関わる熟議 （年5回開催） ・ふるさと教育交流会等の企画運営 ☐ 地域学校協働活動の実施 ・地域と学校の協働活動の推進

栗山町社会教育中期計画 実行計画(令和5年度～令和12年度)

No. 2

領 域	大事業名	小事業名	取り組むべき内容
(2) 自然環境教育	①自然環境の保全・再生	計画事業	国蝶オオムラサキの生息環境を保全・再生し、生態を公開します。 □オオムラサキをはじめ生物の生態を公開し、生き物や自然に触れ合い学ぶ機会を提供する ・オオムラサキ館の運営管理・常設展示のほか、特別展示及び企画事業の実施 ・飼育員の育成及びサポーター育成支援 □オオムラサキをはじめ生物の安定的な飼育・繁殖を推進する。 ・オオムラサキの育成保護 ・町内の自然環境や生態系を保全・再生する ・繁殖計画に基づく飼育・繁殖を実施する。 ・自然関係団体との連携・支援 □栗山英樹さんのクワガタの森づくり ・ファールルの森にクワガタの森をつくり生態を展示する。
		計画事業	ハサンベツ里山づくりの町民活動を支援します。 □復元したハサンベツ里山を、教育資源として活用しながら保全する。 ・里山環境の整備 □活動団体への支援 ・ハサンベツ里山計画実行員会の活動支援 ・タ張川自然再生協議会の活動支援 □新たな担い手、活動団体等への育成支援を行う。
		計画事業	人と自然との共生を推進します。 □関係団体との協議 □シンポジウムの開催 □情報の発信

	②ふるさと自然体験教育 の推進	計画事業	「ふるさと自然体験教育」の推進と、その拠点となる「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」の利活用を図ります。	☐ ふるさと自然体験教育事業 ・町内の小中学校等の教育活動としての自然体験学習の実施 ・社会教育事業での自然体験の実施 ・雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスの拠点活用事業 ☐ 雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス大規模修繕
--	--------------------	------	--	--

栗山町社会教育中期計画 実行計画(令和5年度～令和12年度)

No. 3

領 域	大事業名		小事業名	取り組むべき内容
(3) スポーツ	①生涯スポーツの推進	計画事業	生涯スポーツを推進します。	☐ 教育委員会主催スポーツ事業の実施 ☐ 指定管理者による委託スポーツ事業の実施 ☐ スポーツ推進委員によるスポーツ事業の計画立案及び普及指導 ☐ スポーツ協会・スポーツ少年団本部・くりやまハーフマラソン実行委員会への支援 ☐ その他関係団体との連携（総合型地域スポーツクラブ）
	②スポーツ施設の整備	計画事業	老朽化した社会体育施設の改修などを計画的に実施します。	☐ 社会体育施設の計画的な改修 スポーツセンター 町民球場 公園球場 栗山・角田・継立水泳プール 弓道場 総合グラウンド 運動公園 栗夢広場 ふじ交流センター ふじスポーツ広場 栗山ダムパークゴルフ場 御園パークゴルフ場 栗山テニスコート
		一般事業	社会体育施設の管理	☐ 指定管理者の管理運営 スポーツセンター 町民球場 公園球場 栗山・角田・継立水泳プール 弓道場 総合グラウンド 運動公園 栗夢広場 ふじ交流センター ふじスポーツ広場 栗山ダムパークゴルフ場 ☐ 町管理施設の管理運営 御園パークゴルフ場 栗山テニスコート

栗山町社会教育中期計画 実行計画(令和5年度～令和12年度)

No. 4

領 域	大事業名	小事業名	取り組むべき内容
(4) 芸術・文化	①芸術・文化活動の推進	計画事業	町民が芸術文化に親しむ環境づくりと芸術創造のまちづくりを推進します。 □演劇鑑賞事業□美術展等鑑賞事業 ・伊藤正絵画展・牛田克彦版画展・その他収蔵品展示 □音楽鑑賞事業 ・札幌ひなまつりコンサート実行委員会への支援 ・室内楽コンサート実行委員会への支援 □芸術文化鑑賞事業 □文化振興基金補助金事業 □工房体験教室事業
		計画事業	町民や文化団体による芸術・文化活動を支援します。 □総合文化祭 ・芸術祭実行委員会への支援 ・音楽祭実行委員会への支援 □栗山町文化連盟
	②文化財保護・活用の推進	計画事業	ふるさと栗山の文化財保護・活用や郷土芸能の継承活動を推進します。 □文化財保護保存事業 ・文化財保護委員と連携し、文化財の指定及び文化財保護に対する啓発活動を推進する。 ・泉記念館茅葺屋根の改修を計画的に推進する。 ・歴史的建造物等保存継承事業補助金の活用を推進する。 □開拓記念館事業 □文化振興基金補助金 □地域伝統文化（郷土芸能）普及事業

栗山町社会教育中期計画 実行計画(令和5年度～令和12年度)

No. 5

領 域	大事業名		小事業名	取り組むべき内容
(5) 国際・地域間 交流	①国際交流の推進	計画事業	少年ジェット派遣事業を実施します。	□ホームステイや現地学生等との交流、体験プログラム等の実施
	②地域間交流の推進	計画事業	姉妹都市（宮城県角田市）、被災地などとの青少年交流事業を実施します。	□児童交流事業の実施 ・子ども交歓のつどい（宮城県角田市との相互交流） □青年交流事業の実施 ・青年交歓のつどい（宮城県角田市青年の受入交流） ・勤労青年国内研修（宮城県角田市への派遣研修） □英語コミュニケーションスキル研修（福島県川俣町の連携事業）